

績を期待し、連邦には調整役財政援助のパートをもってもらおうというもの。前大統領ニクソンが手がけた、「レヴェニュー・シェアリング」財政相互分担政策は、ややそれに似た発想のものであった。新長官が果して、リリーフピッチャーの登場で終わるか、完投投手として監督やナイン、観客の期待に充分こたえられるかどうか、見つめていきたいものである。

HOSPITALS, Sept. 1975,

(前田信雄 国立公衆衛生院)

## 初のインターン・レジデントの 全国組合の結成 (アメリカ)

1975年10月1日、医師全国病棟医協会の総会が、この国で初めてのインターン・レジデントの独立労働組合を結成する案を採択した(Physicians National House-staff Association's)。現在も未組織だが組織化されるのをのぞむ団体は全国で150以上もあり、その会員は15,000人に及ぶと発表されている。

委員長のハーモン医師によると、この協会は自主的な単独組織だが、非医師の団体交渉活動の一部をなすもの、と規定されている。つまり、アメリカ公務員連合、地方自治体公務員連合組織、アメリカ看護婦協会、ソーシャル・ワーカー全国協会などと歩調をあわせようというもの。下院労働関係委員会では、これら病棟医を“勤務者”あるいは“学生”のいずれかで身分規定するものと予想されるが、もしも“学生”扱いをするとき、団体交渉権を得るための抗議活動を続ける、と組合側は宣言している。

エドワード・ケネディ上院議員は、この組合の重要な同調者であって、支持声明を明確にしている1人である。彼の期待は、この組合が医師の権限のため

でなく、国民の権利として見苦しくない保健ケアの質の確保につくすことである。この組合の議事のトップに保健ケアの質をめぐる論議をもっていったと要望している。

アメリカ医学校協会会長ジョン・クーバー医師は、インターン・レジデントを前述労働関係委員会が学生とみなすよう法廷諮問というかたちで動いており、賃金・労働時間などをめぐる団体交渉は教育過程であることをおしかくすることになると述べている。

News at Deadline “HOSPITALS” J.A.H.A. No v.1, 1975.  
Vol. 49, P.19.

(前田信雄 国立公衆衛生院)

## 小児の腎臓病対策

(アメリカ)

州全体に及ぶ事業としては初めての、小児腎臓病対策がフロリダ州でスタートした。早期発見と総合的治療を行う事業であるが、この計画は、州衛生部、フロリダ大学およびマイアミ大学共同の施策で、百万ドルの予算である。

この事業の主たる対象は、州の小児医療サービス部から補助をうけている子どもと州衛生部事業で発見された子である。二つの教育病院に総合的な腎不全総合センターが設置され、15のクリニックが、検診と早期発見、治療そしてフォローアップを目的に州内にオープンした。関連した保健ケア・チームが、これらのセンターで、医療からリハビリテーション、外科的サービス、透析、移植などを盛りこんだ活動を展開するだろう。

この事業は、フロリダ小児科医師協会と、この協会と州とによって任命された州腎臓病諮問委員会とが、イニシアティブをとって進められたものである。

News “HOSPITALS” J.A.H.A. P.101, Nov.1, 1975 Vol.49